

四柱推命奧義秘傳錄

卷三

255  
11

特







特21  
934



翁亮義本松 主節祥天





眞 崎 磐 光 君

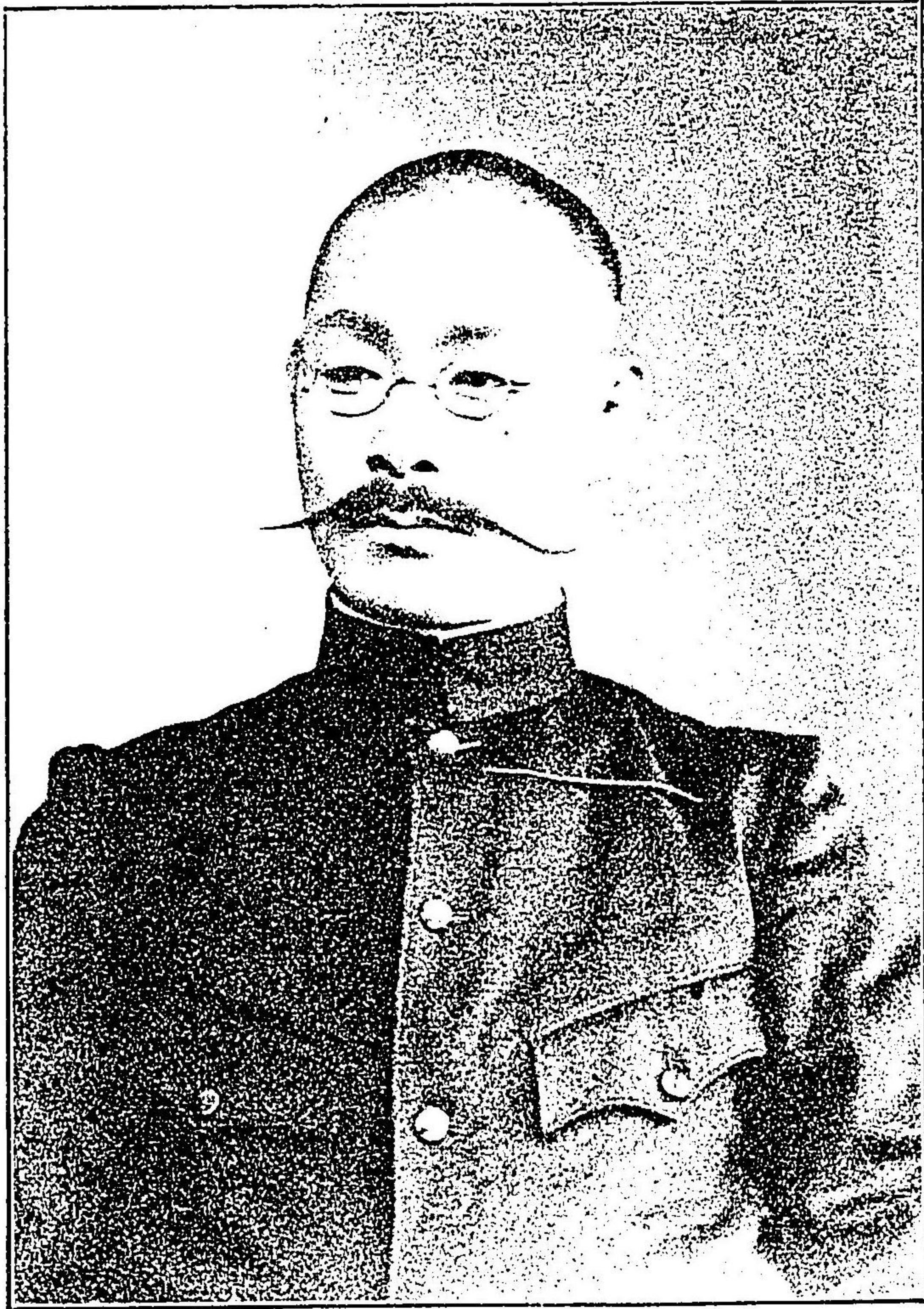




川上大鵬君

眞崎馨光氏は夙に推命學の必要を認め天祥館主松本義亮翁と共に其玄理を推究闡明せし人にして崎陽に在り氏は官海の要職を奉すること前後二十有餘年今尙ほ公途に起ち傍ら學理の研鑽を以て樂みとし將來我國に於ける斯學の發達は氏に期待すべく同好の士なるを以て特に茲に掲ぐ





川上大鵬君

眞崎繁光氏は夙に推命學の必要を認め天祥館主松本義亮翁と共に其玄理を推究闡明せし人にして崎陽に在り氏は官海の要職を奉すること前後二十有餘年今尙ほ公途に起ち傍ら學理の研鑽を以て樂みとし將來我國に於ける斯學の發達は氏に期待すべく同好の士なるを以て特に茲に掲ぐ





君 郎 次 清 戸 瀬

川上大鷗氏は熊本の人にして永がく軍門の要職に在り一たび  
推命學の趣味を認むるや掛官直ちに天祥館主松本義亮翁と共  
に専心研究其眞理を會得し日ならずして推命學界に雄飛せん  
とする前途尙ほ春秋に富む斯學者の白眉たるを以て特に茲に  
掲ぐ





君 郎 次 清 戸 瀬

川上大鷗氏は熊本の人にして永がく軍門の要職に在り一たび  
推命學の趣味を認むるや掛官直ちに天祥館主松本義亮翁と共  
に専心研究其眞理を會得し日ならずして推命學界に雄飛せん  
とする前途尙ほ春秋に富む斯學者の白眉たるを以て特に茲に  
掲ぐ



瀬戸清次郎氏は本書印刷所一成舎主にして由來牙醫の人偶ま  
推命學の深造なる玄理に敬嚮の情を寄せ専ら世人の裨益を謀  
り冗費を吝まずして本書出版の任に當りたる功勞者なるを以  
て茲に掲げて永がく厚意を紀念す



了祥館主松本君曰人新機械志を以て

是の如く人生の事也

有るは人生の事也

夫は人生の事也

鮮矣是の事也

の事也

二卷公其秘奇也





第三四讀之愈其其人壽命之長短妻子思之  
之有其一切禍福之見權制之可也館之京大  
坂造之其序乃冠一之

明治三十九年三月於桃花海之

長崎 賜琴石齋西道仙時年七十有一



### 第三卷のはしがき

本書の前身たる第一第二巻を發行せしより、  
四ヶ月を出でずして、既に版を復ぬるに臻り  
しは、此書が遍ぬく社會の全部に歡迎せられ  
ざるも亦其一部に於て應分の歡迎を博せしこ  
とを信ずるに躊躇せず、著者は同好の君子に  
向て多大の満足を表するのである、表すると  
俱に此際著者の希望を訴はるは強ち贅疣にあ  
らずして、寧ろ讀者に對する著者の義務では  
あるまいか、それ推命究義の至難なるを讀者  
經驗の如く、普通の稗史小説を諒解すると同



日の比にあらず、専門の研究と功夫とに依て始めて堂奥に達することが出来る、然るに動もすれど理義晦難を啣ち乾燥無味を厭ひ、忽ち放棄する人あるを聞き、著者は寔に遺憾に禁はないのである、乃て少々陳腐の嫌ひはあれど讀書百遍意自から通ずる古語を持出さるを得ない、故に讀者は忠實なる斯語の遵守者となり充分咀嚼して秋の月の澄み彌りたる如く、胸に疑念の停滯せざる迄玩味透徹せられんことを切望して歇まなない次第である、若し一縷の光明を蒙々たる疑雲の裡より見出し

たならむ、それが思案の徑路となり渠の日蝕が過ぎ去りて刻一刻に輝々たる陽光發射し來り須臾にして晴天一碧塵をも留めぬ如く、精通することが出来るであらふ、カライルは謂て居る總て高尙なる事は其始め皆爲し難きものなりと、著者は斯學研鑽上特に斯言の適切を感ずるのである

次に告知するは前編の後身たる本卷并に第四卷の遅延である、渠の山嶽が一步より又一步進むにしたがい急峻なるが如く、推命の學說亦た卷を逐ふて難域に遷るが故に、著者は專



心叙述の平易ならんことを懋め、一方には同好者の怙負に應にんとの微衷より、古今自他の學説を參酌網羅し毫も遺漏なからんことを期せしため、豫想外の時日を要せし次第なれど著者の意を諒して寛恕を請ふ

於浪華假寓

明治三十九歲丙午初春

著者 識

四柱推命奥義秘傳錄卷三目次

- 雜氣の解
- 日刃の解
- 魁罡の解
- 十二運の解
- 金神の解
- 陰錯陽錯の解
- 拾惡大敗日の解
- 飛刃殺の解
- 天轉地轉の解
- 四廢日の解
- 天羅の解
- 垣城の解
- 印綬に對する十二運の解
- 偏財に對する十二運の解
- 食神に對する十二運の解



正官に對する十二運の解

偏官に對する十二運の解

倒食偏印に對する十二運の解

傷官に對する十二運の解

劫財敗財に對する十二運の解

比肩に對する十二運の解

正財に對する十二運の解

極秘(組織變化の鑑識法)

極秘冲の解同合の解

極秘合と冲との解

月律分野の解

注意(日干、日支、命星、十二運等の關聯利害)

婦人の解

注意(日干、日支、命星、十二運等の關聯利害)

### 四柱推命奧義秘傳錄卷三

長崎市 天祥館 松本義亮著

### 雜氣の解

○四柱中に財・官・印・食の吉星在れば雜記は用ゆるに足らぬ

雜記とは辰・戌・丑・未、此四支月令に在るを言ふので則ち此四支に限り月律分野の中に天干が混雜して居る譬へば辰の分野中に癸水、乙木、戊土あり未の分野中に丁火、乙木、己土ありて此四支に限り天干の混雜を爲すのだ、本來此四支は土であつて四季の土用を主とする則ち一季の分れ目に位する星である、夫れで辰・戌とは其性陽の支であるから其中に充分の勢力を備えた星は陽干である、則ち辰・戌ともに戌が日數の三分の二を占めて居るのだ、丑と未は己土の勢力が優て居るのみでなく本來丑と未は陰の支で其中に混じた天干も亦陰干が上席を占めて居る夫れで天干の力の強弱はあれども各星固有の性質を失わないから此四支分野の中に坐する天干を以て財・官・印を觀るのみである、假令は甲



の日の生れに月令に戌の字あれば戌の中の辛は甲の正官である。又た戌は偏財であるので財官にも備つた四柱の組織を觀なければならぬ。若し庚の日の生れにして月令に未の字あれば乙木は庚の正財であつて丁は庚の正官に當り己土は庚の印綬となる。されば此命月令に未の字ある許りで財官印にも備つた無上の命を知らねばならぬ。如斯の命を備えて此世に出生するものは福祿遍滿して社會に立てば權威を震るい英名を轟かし仕官は昇進速かにして群衆に仰がれ會社銀行員は頭取の席を占め、商工業家は多額の資財を得て不足なく災害なく幾多世人に敬愛を博し、福と壽とを増大ならしむる者である。然れども四柱中に財官印食の吉星あれば雜氣は用ゆるに足らず、又た格に編入する者は格に重きを措かねばならぬ。

○雜氣命月令に丑の字在て雜記とする時は其丑は墓庫を云て則ち萬物を容れ斂むるの氣を含有して居る天地間の倉庫である。若し之れを季節に配當すれば陰曆十二月陽曆一月に當るので此月農作物は田畑を離れて倉に藏さまり、草木は根も生ぜず、芽も萌さず眠るが如きの状態にて則ち天地の倉庫に藏さまり終つた時期であるから、此氣を稟けて生れたる者は其丑を刑し若くは冲すると吉とせなければならぬ。若し刑冲あれば恰も鍵を以て倉庫を開くに齊しく、又た丑在て刑冲ある者は福祿厚つしとすれども其上刑冲の年に遭遇すれば其年は障碍の百出するは免がれないのである。

○雜氣の命分野の中財星となる星多きを吉とす

## 日刃の解

○日刃の日は(戊午、丙午、壬子)を言ふので、此は是れ羊刃と略ぼ相類似して居る。此日の生れは豪膽にして如何なる大難に際會するも泰然として動くことなく、氣力變らず、心意悠然として、恰も英雄の屹坐するが如く、大事に屈せず、小事に倦まず、大丈夫の質を具すと雖ども、惜むらくは血冷かにして涙黓なく、故に慈善心乏しくして薄情と評せられ、又た我利私慾に富み、人氣を破ぶること黓なしとせ、夫れで中流以上の資格を備へて此神あるものは必だ發達するのであるが、下賤の者には宜し



くない

○日刃ある者多くは妻子を尅するから本人の配偶者たる女は、概して身体虚弱となる。若し妻完ければ子完ならず、妻子の中に缺陷を生ずるは本質の通弊である

○日刃の日の生れは妻を尅し其時上に在る者は子を尅す、日刃沖ある者は生涯苦勞多し、刑沖あり又た三合會局するも災害を免かれない  
○日刃ありて偏官あり大運官運に遇ふの時、大福始めて發達するのである

○日刃ありて刑沖なく三合なく四柱中に印綬ありて偏官あるものは官吏とあらば高位に昇はり商工業者とならば大紳士たることを得るのである

○日刃ありて三刑全く自刑全くして四柱中に魁罡に遇ふ者は、武邊に高名を顯はす人である、けれども如此の性質は無慈悲無情にして他人の生血を吸ふ如きの質である、若し此命にして財星多き者は生涯百種の災害其身に逼まり、苦勞絶えど、大運財運に遇ふの時愈よ困厄續出する者である

○譬へば戊の日の生れの人午を以て日刃とす、夫れが子の運に遇えば子は水にして則ち戊土の財星となる、そこで此子午の日刃を冲するを以て財運を忌むと言ふ譯である

○尙ほ一例を揚ぐれば壬の日の生れ子を以て日刃とす、四柱中に午の字あれば午の火壬水の財星とかる、此財の午は子の日刃と冲するが故に忌むこと甚だし

○丙午の日は午を以て日刃とす、申酉及び庚辛の金は丙火の財星となる而かも冲することなく却て丙火より金を尅するので災害がない  
(金は火に由て性質を變じ又た其銷をも除きて真正の金質を顯すので丙の日の生庚辛又たは申酉あれば財力を増加することとなる)

### 極秘

○婦女子日刃の日の生れは本夫を尅すること至て甚だしき命である故に本人と結婚する者は其夫幾多の資格財産を具有するも、久しからずして本夫の運は衰敗に歸し、而して夫は半途にして非命の最後を遂



く若し又た本質の生れにして身旺の命なれば夫を尅すること頗る甚だし、故に本質の女は藝娼妓となるか、さなくば妾となるか、或は尼となるか、又は看護婦、女教師となるか、而からざれば産婆等の類にして生涯寡婦的生活を爲す運命である。若し強て本妻たる時は前述の災害を免かるゝことは出来ない、何と不幸なる次第ではないか。

## 魁罡の解

○魁罡とは壬辰、戊戌、庚辰、庚戌の四日を言ふのである。

魁罡日の生れの人は性質嚴格にして且つ聰明かり、事に蒞みて決斷早やく節操に富めるもあれど、四柱全體の組織に據て其惡なる者は殺生を好む、由來此質の生れは殆んど運氣の取り様かく如何なる運に遭遇して開發するやら推命學者の苦む所である。

○此日の生れは身旺の運に遇ふて災ひを發すること百端、四柱中に正財、偏財あり正官、偏官あり何れにせよ刑ある者は災禍測る可からざ、在らん限りの不幸が續出して身と攻め苦を嘗め全然此世の苦患と一手に引受けたる薄命者と申さなければならぬ。

○此の日の生れ日上冲ある者は赤貧にして法網に罹り獄裡の災難がある。

○此日の生れ四柱全體の組織良るしき時は頗る發達して廣大遍滿の福德を受くるもあり、又た堅く正道を守て倦まず撓ゆまず、職業を恪執し仁義を敗らず横道にうれず、五常の道を完ふせば長壽を保ち得るの稟性である。

○若し之れに反して四柱中に偏官、偏印、或は羊刃ある者は非義非道にして他を顧みることなく自儘勝手の行爲をなし貪慾に耽けり己れのみ贅を盡くし、慈善陰徳杯は夢想だもあることなく、假令蔭げにて罵詈誹謗を受くるも馬耳東風の有様にて、靦として顧みず蓄財のみに齷齪するので、到底長壽を保ちがたく、多くは四十代にて難疾に罹り、業病を煩らい非命に殞るゝ不倖者である。

○此日の生れは正財、偏財運及び正官、偏官運又は身旺の運に遇ふて災害を發するから、印、綬の運、食神の運の外に幸運あることを見ない、され



と四柱全體の組織に據て運氣の盛衰を究めた方が適當である  
○此日の生れ四柱中に印綬あるを悦ぶ

### 極秘

○女子此日の生れの者は夫の運を破ぶること至て甚だしく日刃羊刃と相似て居る、其多くは藝娼妓若くは妾又は教師其他の寡婦となりて生涯を孤棲する命である、強て本妻たる時は夫の家衰滅に歸し本夫久しからずして非命の死を致すから、くれぐれも注意して宿業を顧みゆめく、本妻たる希望を抱てはならぬ、平常慈善陰徳を専らとし無事に老を養ひ恙なく命を終る如く幸福を天に乞わなければならぬ

○此日の生れは男女を問はず、大運印綬運なき者は長壽を保つこと覺束なし

### 十二運の解

○長生此日の生れは至て温和にして言語寡なく夫婦仲睦ましく妻室

の扶け多し、又た女子は善良なる實子を擧げて孝養篤つゝ終世無事にして永遠に幸福を保つことが出来る

○日時俱に長生に當る生れは極めて饒かなり、身旺にして食神正官及び正財等の吉神に遇ふ者は、此世に於て無上の福祿を有する命である

○沐浴此日の生れは父の財寶及び職業を一洗して住所たびく變わり、多くは生産地を去て住居し、父縁薄すし、女子は善良なる夫を得ず、男女共義理を失ふことあるを以て十二分の注意をしなければならぬ、本質の生れにして四柱全體惡しき時は長壽保し難し、我意強きが故に屢々人氣を傷ふことあるも、已れば之れに心付かずして押透すの僻あるがため、應々親族朋友間にも葛藤を生ずることを免ぬかれない、父母兄弟多くは離散して住居す、若し同棲すれば苦情間斷なし、以上説く所は何れも注意を綿密に用ひねばならぬ

○冠帶此日の生れは貴顯紳士に交際を得立身發達を爲す質にして、常に高尚なることを好み、權威高くして身分賤しからず、若し賤業を營み不正の行爲あらば、運を破ぶりて不幸の極度に達す時に欺偽等の念を



興すので甚だしきは繫獄の悲痛を受くることもある、去れば細心注意すべきは賤業と悪心の二つである

○女子此日の生れは充分の教育を施さゞれば夫及び舅姑に宜しからず教育あるものは暗々裡に本夫の運を扶助することが出来る

○男子此日の生れは軍人及び官吏には至極適當である

○男女共此日の生れは賢にして憐憫深かく、正直にして惡を戒め善を勧め、社會の上位に坐するここが出来、然れども夫婦の縁は兩三度變り、住所亦た動き易し、兄弟の仲親交厚くして互に相援助する美風を有して居る

○此日の生れ初年は諸事意の如くならざるも、晩年に吉にして貴顯紳士となるか又は名譽を發揚するかの幸福が来る

○建祿此日の生れは假令末子と雖ども父の遺産を受け、家督を繼續するの徳を有し、性質温良にして、又た妻に徳備はり、能く貞節を完ふし、家計の扶けを爲し、子縁も多し

○本質の生れは家督相續の徳を有する者なれど若し四柱中に刑・沖あれば一度破れて後ち繼續することゝなる

○本質の生れ女子は本夫を扶助するの徳を保有するのであるが、權威は備はらず、言行一致せず、常に志望繁くして遂ぐることに稀れに一代を過ごす、又た辯舌爽やかにして他人の惡口を謂ふの僻あり、終生心中不足を抱き、且つ好色の性にして時々ムカバツ立つことを免かれぬ

○本質の生れ男子にして下賤なる者は貴顯に愛せられ、又た能く藝能に達す、初年吉なる時は中年より尠しく運氣衰頽に傾き、壯年中年不足の身は晩年に昌盛す、此性常に身動くの僻がある

○帝旺此日の生れは運勢強く社會に名譽を雷動するの徳を具有して居る、又た庶民を愛撫し高地位を得るの質であるかなれど、四柱中に正官、偏官なき者は、自己の強きを頼みとし荒破れ廻るの諺通り、自尊の弊端なく運氣を傷ふの不倖に陥る事がある

○此日の生れは多く養子に行くか、若くは異郷に住居をなすかである、尤も養子は開運發達に赴むき、之れに反し實家繼續すれば妻の死亡を免ぬべし



○本質は運氣熾大なるも兄弟互に相助力することがない、去れど祖先の餘澤は本人に至て始めて顯はるゝのである

○女子此日の生れは夫の運を傷ふこと至て甚だしい、日刃、羊刃の生れ、若くは魁罡日或は年上傷官の女と同一運命を有して居る、故に本人と結婚するものは家運の衰滅を來す、又は夫非命に墮るゝかの災厄がある

○衰此星は隱居浪士の位地に居るが故に其質温順にして奢りを好まざる、淡泊なる性質を具して居る、乃で醫師となるか、若くは學者、僧侶となるか、上流の業を己れに修むるとあれば、世人に敬愛を博し、縉紳の信仰を得て生涯無事の命である、此質の人は永がく慈善心を失はない

○本質は力業を好むの僻ありて仕損じあるを免ぬかれず、賢質を具備すれども、身上定まらずして損失多く、親縁薄すくして苦情斷えず、且つ生涯には盜難二三度起る、夫婦の縁は變り易くして兄弟睦まじからず、四柱中に衰病、死、絶、複さなる時は不俸の續出するところがある

○婦女子此日の生れは心温淑にして舅姑に能く仕ぬ、我慢強情の僻がない

○男子此日の生れは身分先代よりも稍位地低くも

○病此日の生れは幼少の頃身體弱くして病難あるか、早く両親を失ふか、若し両親生存するとあれば必ず離れぐに住す、仁愛薄すし、陰干にして病の日の生れは心至て弱わし、陽干にして病の日の生れは心至て強し、然れども此日の生れは性質温和にして分別あり、唯勇氣なきのみ、両親在れば不孝を働き、女色に溺るゝの僻がある

○女子此日の生れは其夫衰敗するか、若くは半途にして夫を失ふか、白髪を完ふするとは堅い

○死此日の生れは親に不孝なる質にして祖家を繼續すると出来なくなる、然れども幼年父を喪ふ時は復た繼續者となる、妻縁變り易く、老後相續人を失ふか、若くは相續人に就ての苦勞をなすかの憂いがある、然れども商人には決斷早やく同業者中にも譽れを受くることが出来る

○此日の生れは住所定まらず性質短氣にして至て強硬、一筋心にして變化するの活用力を持たないので人氣を破るとを免かれず、名譽は尠



しく發するとあるも、兎角他家相續が策の上乗である

○此日の生れは中年以後にあらざれば發達開運する事が出来ない、婦女子は子縁薄すし

○墓此日の生れ中年迄は諸事凶にして身上修まらず、住居定まらず苦勞多しとす、貧家に生れたる者は漸々發達するのであるが、中年後に至らねば其端緒を開かない、富豪の家に生れたる者は中年迄は無事なるも其以後に到れば、尠しく運氣衰敗に傾く

○此日の生月日に冲ある者は富貴の家に生まるゝ人であつて、貧家には尠す

○月に墓の字あるの命は多く末子であるか、又は以後の兄弟が蚤世するか、月日墓々々複さなれば必ず母の産み仕舞の子である、妻縁變り易すく身體強壯ならず、父母に孝ならず、若くは早く親に離るゝ者である

○此日の生れ中流以上の家に在る者は吉なるも、下賤なる者は悪し  
○此日の生れは生涯損失多きか、又は兄弟縁薄すきか、相互の協力なきかである

○女子此日の生れは至極善良なる夫を得がたし

○絶此日の生れは心定まらず、榮枯盛衰の巷に彷徨するので、浮沈轉變は其身の因果とても評すべきである、殊に表裏在て常に他人の甘言を輕信し、其術中に陥り易くして多くは賤業者とある、去れど賤業は却て發達速やし、之れに反し上流の業は發達鈍ぶし、短慮にして色情を好み、諸事放任主義に流れ易すし

○此日の生れは祖先の跡を斷ち遠國に移住す、男女共親縁薄すく兄弟不和、又は夫婦の縁悪しく苦情斷ぬ間なし

○女子は心強き夫を得るとあれば稍可なり

○胎此日の生れは言語寡なきも却て冗言多く決斷力乏しくして不精なり、絶の日生れに略ぼ類似する所あり、然れども男女とも心柔しくして分別あり、若年の間身體弱く、壯年より稍壯健となる、此日の生れ多くは長らに女兒を擧ぐ

○此の質の女子は賢しと相に見ゆれども愚かなり、嫁して多くは其夫を尊ぶとを知らず、夫婦仲圓滑ならずして再縁にて治まる、終生種々の



苦勞に遭遇して、兄弟間亦た仲悪しきのみならず、之れに就て死別あるか損失あるかを免ぬかれない

○養此日の生れは長生日と大同小異にして、其質温和なり、其多くは商人となる、又た遠國に住す、實家相續は六ヶ敷、中年後に到て妻縁變るとがある

○此日の生れは本來好色多淫にして、男女共に色情の爲めに汚名を蒙り、若くは夫婦の離散となり、波瀾を生ずるとは本質の常である

○此日の生れ一度は養子に行くとあるが、去もなければ他國に住所を移し、却て旅地に於て發達す、夫婦初縁は治まり難し、此質身分は發達するが中に於て文學は適當であつて、商業亦た繁榮す

### 金神時生れの解

癸酉時 己巳時 乙丑時 辛卯時

此四時を金神の時と云ふ

○此時の生れは性質剛毅にして、明敏の才を有し、高踏自から矜持して、容易に服従の意がない、恰も猛虎奮進して、群獸畏伏するが如く、時に威

徳行はるゝあるも、眞の敬嚮を受くる能はず、故に他の厭忌を買ふとあるを以て、須らく之を制禦する者あると可さす、斯くすれば、寛嚴中庸を得て和合を得るの理である

### 秘法

○金神時の生れは四柱中に三合火局あるか、若くは丙丁巳午の火あれば、金神を制伏するが出来、則ち火に據て性質を改め鍛たいあけては汚がれたる錆垢を除去して、眞正なる金質の本色を顯はし、自己の光輝赫灼たるを得るので、恰も玉の砥に於けると同一である、夫れで金神の時に生れたる者は、水運に遇ふて災あり、如何こなれば、水は火を尅するので、火は金神を制伏するの力を失ない、金神勢に乗じて益荒破れ廻り之れを制伏するの怨敵、即ち火力なければ怖まいか、火の力を要する譯で、此時の生れにして、大運火運に遇ふか、又は歳君丙丁に遇ふて始めて發達開運に及ぶのである



### 陰錯陽錯の解

○男子は陽錯を用ひ女子は陰錯を用ゆ  
 ○男子陽錯の日の生れは父の運氣を損減するので親子不和となるか  
 若くは父の運氣が衰頽に傾くかである又た此日の生れは酒色に由て  
 身を破るとあるを以て能く注意せなければならぬ  
 ○女子陰錯の日の生れは本夫の運を破ぶり本人と結婚する者は女の  
 四十代にて其夫死亡に及ぶ

### 拾悪大敗日の解

○此日の生れは父の運氣を破ぶり又は父の命數を損傷するのである  
 から早く親子の別居が必要である但し身旺の生れは吉身弱の生れは  
 凶、兎角散財多く概して譲りの財産あると稀れなり假令多少の資産を  
 得るとありこしても多くは中年に破財あるを免ぬかれぬ

### 飛刃殺の解

○此殺ある者は勝負事を好むの僻あり多くは投機業に手出しするの  
 で夫れが損耗の根原となり家産を失なひ身を破るの恐れがあるうこ  
 で豫め注意をなさねば後悔後に還らず危きを知て退かざるは君子の  
 道でないから常に心得が緊要である又た此星あるものは目先きを形  
 着けて奥を棄て措く等の弊もある

### 天轉地轉の解

○此日の生れは事を起すに總て故障を挟むので志望に妨げを生じ又  
 た身弱なれば養育に困難である  
 ○此日は他出轉宅祝賀等の吉事に用ゆれば末を遂げない

### 四廢日の解

○此日の生れは天轉地轉と略ぼ類似して居る願望志望妨害が多い

### 天囉の解



○男子納音火性の生れにして戌亥の字四柱中にあるを云ふ

○女子水性の生れ土性の生れにして辰巳字四柱中にあるを云ふ

○此日の生れは必ず變死を遂ぐるの質である、則ち天命を完ふすると叶はずして斃死、縊死、溺死、及び刃傷に殞るゝ者、多くは此命である

### 垣城の解

○甲の日の生れ月の時に亥の字ありて又た四柱中に己あれば甲己干合まるので本質を有する者の妻は必ず出奔をなす

### 大秘訣

○凡ろ人の性は年上を以て本命とし、月上を以て運氣とし、日上を以て身體とし、時上を以て子孫と見なければならぬから、其命の年上に現れ出る干支が則ち、其身の性質を顯はすので、年上に現はれる十二運の強弱を以て各自の性質を窺知することが出来る、以下其例を掲ぐ

## 印・綬

空亡

○印綬空亡に遇ふ者は男女俱に親傳來の資産を得難く、本人出生すれば、家計の衰頽を招くか、若くは其母不幸に陥るか、印綬は吾れを成育する母なるが故に、母子の同居は甚だ宜しくない、若し其家財産あれば骨肉親縁、或は他人に横奪せらるゝか、さなくば中年に及んで失ふか、何れにせよ永遠に保持するとは出来ない

長生

○印綬長生に遇ふ者は父母正直にして慈悲心を有し、毫も不正の行爲なく、世人の崇敬を受け、殊に母長壽を保ち、其身も母の恩愛深く、生涯大難を免ぬかれ、大病難疾の患なく、長壽を保ち、天命に終はるの人である

沐浴

○印綬沐浴に遇ふ者も其母本人を産みて再婚するか、若くは本人出生



後不倫に陥り姦通を働くか、何れ良しくない。然れども之れ宿世罪業の而からしむる所にして詮方ない。又た本質は親の徳を受けかくなること多くは諸所に流浪すけれども本来印綬の質を失はないので學術伎藝は充分發達するものが出来る。女子は印綬在て四柱中に正財・偏財あれば産婆となるか、髮結こなるか、其他の賤業に生涯を送るの身となる若し財星かくして四柱全體の良好なる者を卑賤ならざる他の職業に就くことが出来る。

### 冠・帶

○印綬冠帶に遇ふ者は貴顯紳士となり、或は君子とあるの運勢を有して居る。本質を貧賤の家に出生するとなく、必ず中流以上の家に生まるゝので、遺産を襲ふにも瑠珠るしゆの障碍がない、殊に惡念なく慈善心豊饒にして、衆人に賛賞せられ福壽圓滿なる幸運兒である。

### 建・祿

○印綬建祿に遇ふ者を必ず家督相續者である。性温厚にして寛仁、主に中流以上の社界に起臥するを得て、始終歡樂の境域を離れず、忠孝両全の士にして、災厄來らず、長壽を保ち得る果報者である。

### 帝・旺

○印綬帝旺に遇ふ者は父の運氣旺盛なる時に於て出生するのである。されば中年迄は無難なるも以後を衰敗に傾く、而かし其父母長壽を保ち其身亦た命數長がし、女子多くは子なし、男子を學術に長じて名聲揚がるも福は薄すしこす。

### 衰

○印綬衰に遇ふ者を其質端正にして又た温厚である。故に賤心を去り賤業を避け上流の業を營めば漸次に發達し、長者の愛顧を蒙ることが出来る。去りながら之れに反する時は明暗境を異にし、幸福轉倒して窮途に彷徨よはねばならぬ。

### 死・墓・絶・病

○印綬死・墓・絶・病に遇ふ者は父母の縁薄すし、又た遺産あるとなくよしや豪家に生まるゝも、將來貧に逼まり諸事意の如くならなくなつて、命數長がきを保ちがたし、去れば本質は身を正實に保持して、五常を守り



伎術家となるか、醫師となるか、學者となるか、必ず無形の財産を身につけて無事に生涯を送るの計を建てねばならぬ、女子は教師、産婆、裁縫等の職が恰好して居る、男女共早く母を喪ふとがある、且つ女は子縁薄し、若し生まるくとありとするも恨むらくは母子の同棲逆の憂を見るが故に、必ず他人の手に依りて養育なさればならぬ

胎 ○印綬、胎に遇ふ者は方正にして悪意なきも、活潑進取の氣概なく、社會に起て雄飛するとは到底出來ない、男女共多くは女子一人を得て世嗣とするのである

養

○印綬、養に遇ふ者は長生と概ね同一の性質にして極めて正直である、仁義道德に缺くるとなく、漸次發達して長壽を保ち、親子の仲睦まじく子孫長久の基を確立する事が叶ふ

冲刑

○印綬、冲刑に遇ふ者は幸福悉く消滅して災厄のみ残り、父母を喪ひ、家産を失ない、生家の繼續もなされば、父祖傳來の家業も取らず、東西に放浪して伴せを得るとなく、困憊の裡に生涯を送り、命數亦た長がからず

羊刃

○印綬、羊刃あつて又た死墓、絶に遇ふ者は、其母愚痴か、母子不和か、或は俱に病身あるかである

### 偏財

空亡

○偏財、空亡に遇ふ者は父の徳を得るとが難い、生家の繼續もなされば、遺産もなく、本人出生すれば其父多くは死亡するか、將た運を破り不伴に陥るか、若くは父子離隔するか、何れにしても父縁薄すき質分たるを免ぬがれない

長生

○偏財、長生に遇ふ者は其父尊し、而して父子睦しく、父の財産を得て故



障災禍なく、安穩に生涯を送り、父子俱に命數長がく、道德堅固にして幸運を歌ふとが出来る

沐浴

○偏財沐浴に遇ふ者は母其子を産みて他家を再婚するか、或は其父愚なるか、何れ本人出生すれば父の家運衰微して、生家の繼續がならなくなり、其多くは他家を養子となるか、又は異郷に住居を移すの人にして財を得るとは雨夜の星こでも云ふべきであらふ

冠帶

○偏財冠帶に遇ふ者は父徳を受けずして、却て他人の財福を得る稟質である、夫れで多くは養子となるか、さなくば他國を移住して商人となり大發展を遂げ名聲を揚ぐるの人

建祿

○偏財建祿に遇ふ者は能く父の徳に浴して遺産もあり、其相續も爲し完全無缺の命である、本人出生すれば其父益發達し、恰も夏草の雨を得たるの勢あり、家運隆々日を逐ふて熾大に向かい、父の名聲忽ち揚がり

且つ延命となり、本人亦た命數長がし、去れども妻疎こみ又縁變はり易く却て妾を愛するの嫌ひがある

帝旺

○偏財帝旺に遇ふは父運盛大の時に出生するので、中年後は運氣衰微す、其多くは他人の養子となる、之れ却て無事を保つけれど遺産は尠きを免ぬかれぬ

養

○偏財養に遇ふ者は其質朴直にして奢侈を好まず、惡意なく破徳の所爲なく、其多くは養子となりて發達の基を開く、然らざれば旅地に住す、又旅地程發達早しとす

胎

○偏財胎に遇ふ者は善惡俱に尠なく、父の害ともからねば、又た其恵みを受くるともなく、別家するか養子となるか、此の質繼續者には極えて尠ない、此性生涯平々坦々浮沈稀れである

衰墓病死絶



○偏財之れに遇ふ者は出生後父運衰え、遺産もなければ、家業の繼續もせず、養子となるか、若くは他所に流浪して開運發達の曉もなく、即ち生涯不足多き不運兒である

冲刑

○偏財、冲刑に遇ふ者は父の運氣を傷ふと甚だし、本人出生すれば其父不倖に陥り家産を破るか、又は死去するか、隨て遺産もなければ讓りの業の繼續もせず、浮沈甚だしく概ね艱難の境に起ち、殊に妾を娶れば厄難を發し活動力を失ふに及ぶ

食神

空亡

○食神、空亡に遇ふ者は概して短命である早やく母死するか、若くは幼年乳に不足を來すか、成長の後ち妻の親と不和を生ずるか、妻の家に迷惑を及ぼすかである然れども四柱中に正財偏財あれば惡運全く變じて幸運となり發達す

長生、建祿、養

○食神此の三星に遇ふ者は極めて方正にして仁義道德を恪守し、身には教育を備え其身の稟くる幸福も厚く、生涯衣食に窮せず下賤に陥らず、中流以上の地位を占め、社會に賢者と仰がれ篤行家として尊まれ、國法に觸るゝの恐れなく安如として一世を送るの人にして女子は頗る賢兒を産む

沐浴

○食神、沐浴に遇ふ者は短命なるか母縁薄すきか、若くは乳に不足を生ずるかであつて、大福を得る望みもなく、大低中流以下の人である、生涯苦勞不足俱に多く、女子は淫靡に流れ藝者娼妓若くは妾となる、男子は妻の親と不和を生ずるか、或は詮方なく妻の親を養ふ場合に立到るとがある

冠帶

○食神、冠帶に遇ふ者は正道を守り、仁義を重んじ、最上無比の幸質である、上流に位いし、福祿發達して意想外の倖せ續出し、上下の信用厚つく



名譽を赫々たらしめ、他人之を冒かすとを得ず、命數最も長く、只管吉方にして、親、妻との親睦も厚つく、若し長男にして此命あれば多くは名僧となる

衰

○食神、衰に遇ふ者は、道德を重んじ、仁義を守り、上流の業を營み、孜孜として倦まずんば、遂次發達となす、若し之れに反して不正の行爲を働きて、下賤の職に就く時は、窮厄に陥り、開運發達の曉なく、終生流浪しなればならぬ

帝旺

○食神、帝旺に逢ふ者は、多く生家の相續者であつて、福備はり、壽件ない、品性高尚にして、卑賤に陥らず、生涯衣食住に窮することなく、多福の質である

死、墓、絶、病

○食神、之れに遇ふ者は、短命なるか、母縁薄すきかにして、本人出生すれば、其母運氣の變動を來し、概して不倖に落つ、然らざれば、母と不和か、又た妻家に災厄起り、己むなく、妻の親を養ふ煩ひが生じ、福祿薄すく、流浪多く、幼年生育に苦むを免ぬべからぬ

冲刑

○食神、冲刑に遇ふ者は、福を失ない、母を尅し、幼年必ず乳不足し、延て生涯衣食を完ふしがたく、苦心斷えずして、諸所に彷徨い、困頓纏はり、救濟する人もなければ、獨立の活動も叶はずして、漂零涙乾く間もなき、數奇の質である

正官

空亡

○正官、空亡に遇ふ者は、貴顯紳士の眷顧も莫ければ、官途の昇進も望みがたく、權威を失ひ、他人の輕侮を招き、融通は付かず、發達はせず、不幸繁くして、人生難を啣つの人である、女子之れに遇ふば、夫を尅す、故に本人と結婚する者は、久しからずして命を失ふか、或は家運の衰滅を來すか、何れ久しからずして、必ず寡婦となり、倚るに人なく、托するに物なく、無



情を天に訴ゑる憐むべき人である。假令中年に不倖到らざらざるも老後一度は福を傷くるとを免かれない  
 長生

○正官長生に遇ふ者は至大の幸福を身に賦與せられたので長上の恵み充分備つて居る。主として學者となるの質である。其性正直にして惡意更になく、衆人の愛敬を受け、道德鞏固にして一生無難の人である。女子は至極善良なる本夫を得又本人と結婚する者は暗々の中に本夫發達して無上至大の好運に登り、生涯無事の命である  
 沐浴

○正官沐浴に遇ふ者は、假令大家に出生するも、中年一たび變轉して不倖の極度に沈淪するを免かれない。此命を有するの人は中年迄は斷じて發達が出來ない。然れども四柱良しき時は中年後に到て開運に向ふ。女子は夫の運氣を害するので、姦通を働き其他徳を傷ふか、或は藝娼妓となり若くは妾となり、又は寡婦となり長壽保ちがたし

## 冠帶

○正官冠帶に遇ふ者は實に天稟の幸福を以て世に出でたるため、官海に入れば進級速やく、殊に四柱良しき時は親任官に達するも敢て難からず、長上の氣受け克く、部下の信賴深く、衆人に崇高せられ、水平線上に卓立する世の寵兒である。女子は賢夫を得て、比翼連理の樂み永かく、紅閨帳裡鴛鴦の夢濃かにして幸福自由人生の波浪を知らずに世渡りが出来る羨やましき果報者である。但し偏官冠帶に遇ふ時は頗る惡し  
 建祿

○正官建祿に遇ふ者は冠帶を凌ぐ最上の命にして、福祿無限の發達を爲し、毫末の故障なく、好地位に坐し幸運其身に、充滿して、一點の瑕瑾なく、權威赫々内外に耀き、名望噴々中外に響き、進んでは國家の重鎮となり、退ては庶民の儀標となり、位人臣の顯榮を極むるは此質の外にある。となし、若し正官月上に在て建祿に遇ふ時は、本人出生後父の運氣旺盛となる、實に高福厚祿の士にして旭日冲天の勢ありと評するも未だ慊たらず、幸運浩浩大海の如く、今更賞賛に辭なきを苦み、先づ麒麟兒とも謂ふのが適當であらふ。若し女子にして此命を得ることあらば本夫



の運は益々勢力を得て鬼に金棒、伉儷つがい永く連理の枝と共にし人生の最大幸福を謳歌する好箇の稟質である

帝旺  
○正官、帝旺に遇ふ時は建祿と大體を一つにし、官吏とならば榮進著しく、社會に公益を與ゑ、天下に其威を耀かし、偉名揚々、庶民悦服、一世の崇尊に價する質である、但し身弱の生れは正官にあたるとが出来なくなり、却て流浪困憊するところがある、女子は威勢強き本夫を得て至大の幸福を發す

衰  
○正官、衰に遇ふ者にして正道を踏み正義を専らにする者は他人に敬せられ邪念を起し非義を逞ふする者は不倖に陥るから、懇々注意して妄念を防ぎ、賤業を避け、成るべく高尚の業を營むにしくはなし、女子にして建祿、長生、帝旺に遇ふ者は本夫の運を援け内助の効著大なれば、假令本夫の運悪しくとも之を轉倒して幸運たらしむる偉力がある

病  
○正官、病に遇ふ者は万事發達することなく、長上の引立もなければ、天賦の福祿も薄すく、權威振はずして不倖續き、身躰亦た弱き窮厄の人である  
死、墓、絶

○正官、此に遇ふ者は薄倖不遇の人にして、貧苦、飢乏、纏綿てんめんし、假令大家に出生するも中年境遇一變して窮達の悲境に落ち、生涯福祿來らずして貧縷の巷に彷徨ふ可憐なる質である、女子は本夫の運を尅すること甚だし、本人と結婚する者は、其夫漸次に衰微して不倖に沈溺せんめくし、家運を破ぶり、若くは非命の最後を遂ぐる者である、女子其者も卑賤の質であるから、醜業婦となるか或は寡婦となるを免かれぬ、男子正官、死、絶に遇ふ者は子なしとす  
胎

○正官、胎に遇ふ者は大福もなければ大禍もない、故に正道を行ふ者は中流の資格を保つ事が出来る

冲、刑



○正官、冲、刑に遇ふ者は資格を失ない、長上の咎めを受けるか、さなくば不倅に沈淪す、災害極めて夥し、官吏からは昇進するの望みなく、實業家ならば成功するの樂みなし、不忠不孝亦た稟性の而からしむ所である

### 偏官

空亡

○偏官、空亡に遇ふ者は、長上の愛顧を受くること尠なく、女子は本夫に縁薄すし、男女共老後薄福の命である

長生、養

○偏官、長生、養に遇ふ者は、開運發達の質にして、目上の寵愛あり、世人の氣受け能く、善良なる實子を得て、孝養淺からず、多福の人である

沐浴

○偏官、沐浴に遇ふ者は、開運發輝の福なく、中年身上の變轉を免ぬかれず、女子は本夫の縁薄すくして、其夫亦た運を傷ふ

冠帶

○偏官、冠帶に遇ふ者は、軍人杯に適當の命である、其性剛情我慢にして、慈悲なく、仁愛なく、獨立自尊主義の行爲に出で、配下を蔑視し、遂ひに因果應報の譬えに漏れず、部下の爲め災害を被むるの不幸に逢ふ、常人亦た此範圍を脱せず、此質多くは賭博の僻を有し、果ては無頼漢となることがある

建祿

○偏官、建祿に遇ふ者は、性温順にして、世の衆望を得、漸次に發達して、來福の曙光に浴することが出る

帝旺

○偏官、帝旺に遇ふ者は、社會の好位置に在るを得るも、本來冒凌の性僻あるを以て、世人の崇尊を受けることは望まれぬ

衰

○偏官、衰に遇ふ者は、仁愛乏ぼしき爲め、天の福に浴すること覺束なきも、其性正直なれば、之れに酬ゆる天の配劑に據り、尠しく發達す、死、墓、絶、病、胎



○偏官死、墓絶、病胎に遇ふ者は略ぼ沐浴に類似す  
冲刑

○偏官冲刑に遇ふ者は不義不善にして人倫の道を辯えず、隨て幸福招  
けども來らずして災禍招かざるも至るのである

### 倒食偏印

空亡、沐浴、病死、墓絶

○偏印此に遇ふ者は祖先を尅すること激烈にして、幾代繼續する舊家  
に生れ來ても、本人の代に到て、零落衰敗に傾き、家計艱難となり、不倖の  
眞底に落ち、棲み慣れし祖家も他人の有に歸し、終生災禍打續き萌芽の  
春なく、窮途に迷ふて、種々の志望悉く水泡に屬し、却て希望の爲め其痛  
苦を増し、手を拭いて創を覓むるの類となり、天地に俯仰して、感愴する  
も幸運際會せず、竟に社會の冷鬼となり、窮措大に終るの質、天命如何と  
もすること能はずも、せめては身に藝能を具ゑて、倒れぬ前きの杖と爲  
なければならぬ

### 長生養

○偏印、長生、養に遇ふ者は福祿薄すく、晩年の發達亦た期すること能は  
ざるのみならず、長上の引立てもなく、寄ること障ること意の如くならざる  
故に、學者となるか、僧侶となるか、適當である

冠帶、建祿、帝旺、衰

○偏印此に遇ふ者は學者若くは出家又は教育家とならば、社會の崇高  
を受け、生涯恙なく其命を保つことを得るが、商工業者は失敗が多い、女  
子は子の縁薄すく、剩さゝ傷官ある者は難産を爲すことがある

○偏印、胎に遇ふ者は福利も薄すく、長壽も難く、専ら藝術を以て世を渡  
るのが安全の策である

### 冲刑

○偏印、冲刑に遇ふ者は祖先の遺産なく、不倖中に唵叫して、儂なき浮世  
を送る、輾轉不遇の命である



# 傷官

空亡

○傷官年上に在て空亡に遇ふ者は祖先を破り遺産を得ることなく、他國を彷徨する薄福の質とす  
長生養

○傷官長生養に遇ふ者年上に在れば幼年無事なるを得べく、月上に在れば中年大發達を遂げ意外の福祉を得て社會に聳峙するの機運に達し、四柱良しき時は晩年迄も甚盛するこが叶ふ、女子は至極善良なる實子を擧げることが出来る、然れども惜むらくは夫に縁淺きを免ぬかぬ、又た女子にして月上に傷官ある者は美貌なるか愛情あるかである、男子は親兄弟に縁薄すし  
沐浴

○傷官沐浴に遇ふ者男子は福祿薄く、心大なれども、志し遂ぐるこ難く、表面を飾り、衷心苦しきは此質である、女子は子なしとす  
建祿帝旺冠帶

○傷官此に遇ふ者福祉至て發達し、廣大なる身代を興こし有望なる紳士となる、然れども劍難を帯びるが故に、細心居常を注意なきぬばならぬ、女子は夫の運氣を破ぶること著し、されども實子を得ば其性賢明である、若し年上に此に遇ふ者男子は四十前後迄發達するも以後運を破りて悲境に落ち、女子は嬌婦となりて空閨に泣かぬばならぬ、去れども妾となる事多し  
胎

○傷官胎に遇ふ者は大福もなければ大難もなく、女子は美艶なるか愛情あるかなれども本夫の運を破ぶつて、寡婦を爲るの命であるから、古來佳人多くは薄命と謂ふのであらふ、男女共父母に不孝なるを免かれぬ  
死墓絶

○傷官死墓絶に遇ふ者は卑賤にして仁義を知らず、道德を解せず、私利を貪り我慾を恣まにし、他人の幸福を見ては嫉妬の念熾々として燃え、義理もかければ人情もなく、貪慾の心に驅られて、勝手氣儘の行爲に漁



せる惡僻ある爲め、發達の基礎を失ない不幸多しとす、女子にして之れに遇ふ者は賤業者となり、髮結若くは妾、又は藝娼の婦となる、生涯下賤の境域を脱すること出来なくして、終身本妻たる資格なし、男子は中年迄可なるか若くは一度發達を來すも、四十歳後は貧窮に陥り諸事意の如くならなくなつて多くは短命に終る

刑・冲

○傷官、刑、冲に遇ふ者は祖先を尅し家運を破ぶり、終生發達することなく妖禍に閉ぢられる質である女子は子縁薄し

### 注意

四柱中に傷官在て正財、偏財ある者は大福發達すると、恰も蛟龍雲雨を得て天門に入るが如く、社會の耳目を振撼するに到る幸運兒である、唯恨むらくは此種の人に權威なく、從て世人の輕侮を免ぬかれず、心事亦た陋劣にして芳名を遺す杯の事は決して望まれぬ、次第である

## 劫財、敗財

空亡、死、墓、絶

○劫財、敗財、此に遇ふ者は下賤甚だし、無道德、無情、無慈悲、無法にして筆舌の竭す限りにあらず、貪汚、猜疑、嫉妬等は本命の特質にして破廉恥罪を犯かす者は如此命である、若くは本來人面獸心とも評すべき動物であるから、天與の幸福杯は夢々あるとなく、希望實行に伴はずして、衆人に忌み嫌はれ、信用なく、引立てなく、不倖の裡に生涯を送らねばならぬ、女子之れに遇ふ者は本夫の運を破ぶると激烈である、男子之れに遇ふ者は妻を尅し子を尅するを免ぬかれぬ

長生、養

○劫財、敗財、在て長生、養に遇ふ者は兄弟の徳を稟くるか、將又た兄弟の家を繼續するとがあるかの倖せが、稟質と約束せられてある、加ふるに四柱良しき者は、生家の相續もなせば遺産も得べく、從て福を發するこ



こゝはなる此神ある者四柱中に正官偏官あれば大惡一變して大吉こ  
かり大福發達して紳士紳商となるか官吏とすれば榮進して高位を占  
むる俸せがある然れども身旺の生れは福薄し  
沐浴

○劫財敗財在て沐浴に遇ふ者は薄福にして遺産もなく開運するの樂  
みもなく貧縷に閉ぢられ妻を尅し子を尅するの質である女子は本夫  
の運を破ぶりて多くは賤業者となり寡婦となるされども四柱中に正  
官偏官あれば男女共運勢一變して大吉となり男子は發達し女子は本  
夫の運を扶助すると出来る

冠帶帝旺

○劫財敗財在て冠帶帝旺に遇ふ者は幸福を得て顯官となり富豪とな  
り位置高きを保つとが叶ふ然れども身旺の生れにして劫財敗財に  
配すべき正官偏官なき者は假令冠帶帝旺に遇ふとするもあまり身強  
きに失し財を尅し盡くし脇目も振らず荒破れ廻りて制する者なき爲  
め財星の福神も逃げ出して折角の正財偏財も光輝を失ふため自重し

て寄付かず寶の持ち腐れに終るのである故に意氣強よく志大なれど  
も實行出來ず貧にして力のみ強く妻子を尅し多くは孤獨となる去れ  
ご命數長きが故にせめても命在ての物種と諦むるの外はないのだ女  
子は本夫の運を尅すると至て酷だしく本婦と結婚する者は久しから  
ざして家を破ぶり身を亡ぼし奇禍に遇ふて非命の最後を遂ぐるとが  
ある然れども正官偏官あれば悉く轉倒して大福大吉となる  
建祿

○劫財敗財在て建祿に遇ふ者は多く家督の繼續を爲すのであるが官  
星なければ發達するとなく久しからずして家運を破ぶり晩年衰頽し  
て其末路憐むべく妻子を尅するとも前述の如し女子も亦本夫を尅す  
る事甚し  
衰病刑冲

○劫財敗財在て衰病刑冲に遇ふ者は死墓絶と稍類似して居る衰病は  
尅しく輕し  
胎



○劫財、敗財在て胎に遇ふ者は正官、偏官なければ發達爲し難く以下前  
述の如し

### 比肩

空亡

○比肩、空亡に遇ふ者、男子は父を尅し妻を尅す、何こなれば比肩は偏財  
を尅するので、其偏財が即ち父の星に當るからである、而るに己れが尅  
する者が則ち偏財である、夫れに比肩は此日干の我身と力を等しくし  
て偏財を尅し竭くすので、本人出生すれば其父命を保ち難し、若し生存  
するとあれば貧苦艱難の境遇に立たねばならぬ、本人亦た福を得ると  
なく、女子は夫子に縁薄すし

長生

○比肩、長生に遇ふ者は善良なる兄弟を得るか、さなくば兄弟の徳を稟  
くるかなれども久しからずして兄弟不和を生じ、妻縁亦た屢々變るの  
質である、如何こなれば比肩は由來正財、偏財を尅するの星なるからだ

其正財、偏財は即ち妻星であるから比肩は此財星を尅し盡くすが故に  
妻を尅する命と謂ふも宜なる譯合である、但し本質は尅しく偏人であ  
るから男女共衆望を受けんとするは、木に倚て魚を釣るの類であらふ  
沐浴

○比肩、沐浴に遇ふ者は兄弟墻に闘めき、又た父を尅し、苦勞繁くして、男  
女共中年身上の大變動を爲し盛衰甚だしく、若し四柱中に正官、偏官あ  
れば却て良好なる

冠帶、帝旺

○比肩、冠帶、帝旺に遇ふ者は高位高官に昇るか、紳士富豪となるか、何れ  
身上榮達するのであるが、商人には良しくない、先づ官吏が適職である  
男女共兄弟に才智の者あるか、若くは兄弟の徳を蒙むるか、なれども惜  
むらくは愛情濃かならずして、又た父の爲めにも良しくない

建祿

○比肩、建祿に遇ふ者は、家督の相續も爲し得べく、剩さぬ四柱良しき者  
は發達の徳を備ふ、四柱良しきとは正官、偏官在るを謂ふのであつて、正



財偏財は望むべきでない、即ち不良である

衰 ● ○比肩衰に遇ふ者は、兄弟縁薄すし、若し兄弟あれば不和を生じ、其身不  
伴多く、加之父縁薄すく、妻縁變り易すし

病 ● ○比肩病に遇ふ者は、其兄弟病あるが、又た兄弟に就き苦勞あるが、何れ  
にせよ兄弟に不伴を及ぼし、其身の福亦高からず

死 ● ○比肩死に遇ふ者は、兄弟の縁薄すく、偏屈にして卑賤に陥り、開運發達  
の曙光認め難く、父に不孝にして妻を尅し、又た女子は夫を尅す

墓 ● ○比肩墓に遇ふ者は、男女共中年に於て發達するとあるも、盛衰早やく  
恰も槿花一朝の榮に喩ふべき質である

絶 ● ○比肩絶に遇ふ者は、概ね賤業者となる、賤業は却て無事を保ち、其身の  
天職と言ふも敢て不可なく、頑固偏強にして比肩の界を脱すると出來

胎 ● 通常に不足多く、女子は良夫を得ると亦た難たし

養 ● ○比肩胎に遇ふ者は、男女共子縁薄すくして、其多くは女兒を以て老後  
の杖こし係子とせなければならぬ

○比肩養に遇ふ者一時は社會に面目を放ち、開運に乗ずるとあるも、榮  
枯遷轉極めて早やくして、中年に發達する者は晩年に衰微し、中年迄不  
伴の者は晩年に發達すると、此命に對する天の配劑である

冲 ● 刑 ● ○比肩にして冲刑ある者は、兄弟を尅すると酷だしく、其身も亦た災禍  
多しとす

正財  
空亡



○正財空亡に遇ふ者は徳薄ずくして福尠かき、假令一度幸運に達するも久しからずして衰敗に傾き、其多くは中年に發達して晩年に衰頽し、能く始めありて終りあるもの尠なきの類である、男子は妻縁薄すく、女子は本夫の縁薄すきを免ぬかれぬ、本來正財は吉星であるが、惜い哉空亡の爲めに其稟質を變ぜられて財力を失ふに及ぶ

長・生・建・祿・養

○正財、長生、建祿、養に遇ふ者は、妻の徳を充分に吸収して生涯福祉厚く、劫財、敗財なくして此神あれば社會に起て摺紳しゆんとなり、多くは豪商となる、されど出生地には永住するを得ず、異郷に寓して多くは中年より大發達を爲す、本質は五常の道に叛かかず、道德堅固にして義俠心に富み、他人若し憐みを乞ふとあれば資財を抛ち有らん限りの力を單めて助力する爲め、社會の歡迎を受け、世人の敬愛を買ひ而して長命を保ち、幸福無限にして父母の扶助多く、女子は良夫を得、其徳を受けて同棲の歡び永がく、樂み人として羨まじむる程である、男子にして此星の女を娶れば、假令本夫の運拙なきも、妻の爲めに開運發達するので、大黒尊天に超越した福神である

年上正財在て建祿に遇ふ者は、概ね家督の相續者となる、○養に遇ふ者は老て色情を好み多くは夫婦の離散を來す、建祿、長生よりも稍下位たるを免ぬかれぬ

## 冠・帶

○正財、冠帶に遇ふ者は、至て好地位を占むる天性にして福祿の化身と稱するも敢て過褒にあらず、名聲嘖々天下に轟き、貴顯紳士とかり、名譽と幸福と提携して年々俱に進み、仁者の譽れ高德家の噂々隆々として社會に持て囃はなやされ、殊に義俠心に富むは正財の特色なれば、世人の氣受け能く、洵まことに得難き幸運兒である、然れども比肩、劫財、敗財ある者は正財を破るが故に、假令建祿、帝旺、長生、冠帶の吉星に遇ふとあるも、前者に其威を傷けられて力薄弱となる、若し又た食神在て正財、冠帶及び建祿長生に遇ふ時は、無上無限の福祉聚中して最幸運到來し百年の壽亦た短かゝらしむる感がある、其發達廣大なると付度たぐひするに難く、算數比喩の到底及ぶ處でない、女子は本夫の運を扶助すると長生、建祿の吉星と



同一である  
帝旺

○正財、帝旺に遇ふ者、幼年は幸運の家<sup>に</sup>生長するも、中年後に到れば衰運に傾き、苦勞多く、妻徳破るが故に良妻を得難く、其妻概して不貞なるか、病身なるか、若くは妻縁數々變はるかである、女子之れに遇ふ者は赤繩辛ふして保つを得るも、後來尠しく家運の衰微を招く、何となれば帝旺はあまり位置登り過ぎて却て運を傷ふから、滿つれば缺くる世の諺に洩れない

衰  
○正財、衰に遇ふ者は、男女共中年發達して晩年に衰微するが常である、男子は良妻を得ず、女子亦た良夫を得ず、兩々閨怨に泣くとは即ち此等の命を云のであらふ  
沐浴

○正財、沐浴に遇ふ者は、一度開運發達を見るも、後年衰敗して悲境に陥り、又は妻を尠して縁變はり、若し變らずとせば其妻不貞なるか、虛弱なるか、多くは子縁なく、よしや實子出生するも不孝の兒たるを免ぬかれない、○因みに本質の妻は多く姦通を働く、女子之れに遇ふ者は本夫の運を破ぶる、男女共遺産あるなく、若し大小の家産を讓られあるも中年悉く蕩盡して保持する<sup>と</sup>が出来なくなる

病  
○正財、病に遇ふ者は、男女共親縁薄すく、盛衰頻りにして福尠なく禍ひ多し、住所變動繁くして身体弱わし  
胎

○正財、胎に遇ふ者は平穩にして浮沈尠なく、大徳もなければ、貧苦もな  
く、概して細く長き無事の質である  
死墓絶

○正財、死、墓、絶に遇ふ者は親縁薄すく、常に尠大なる希望を有し従て大業を好むの性質であるが、一途も爲し遂げると叶はず諸事失敗に終はり、薄遇を啣<sup>く</sup>つの外はない、假令中年發達するとあるも晩年は衰運に傾き、果ては不倖の渦中に沈淪し、百種の災害は時を選ばずして簇出し、苦



を祇め、難を蒙り、遂いには衆人の忌憚を買ひ、社會の厭鬼と爲り落魄たる餘生を送らねばならぬ、併かし産地を遠離して故山の風を避け活動すれば、慙しく發達することが出来る、兎に角妻子の縁薄すきを免ぬべし、而して其妻は病身なるか、或は亦死別の不倖に罹るか、女子之れに遇ふ者は色情深かし、男子は女難多し

## 注意

正財在て日座空亡に遇ふ者は妻子を尅すること甚だしく、幾度結婚するも破縁となるか、死別となるか、て、多くは孤獨となる(日座空亡とは(甲戌の日乙亥の日)の二日を言ふ)

冲刑

○正財、冲刑に遇ふ者は、福もなければ、徳もなく、ある妻子迄も尅し貧なる運命を擔ふて他國に流浪する可憐の命である

## 極秘

○前述の諸説は其星のみに對し説明を下したのである、然れども本來四柱推命の組織は單に一圖の命星干支を以て善惡邪正を詳説することと出来ないのである、よしや説明したりとするも一を知り二を知らず、時針器の表字盤を看て其器械の錯綜輻雜なるを悟とらぬに均しく、四柱全體の中に劫財、敗財及び比肩等の惡星が現はるゝも、正官偏官の吉星在て惡星を征服することあらば、全く劫財、敗財、比肩は其勢力を失ない、惡意を醸して善性となり福祿を起すことゝなる、即ち毒藥が良醫の配劑に依て良藥と變する如きである、抑も劫財、敗財、比肩は我身即ち日干と同質を帯びる者であつて、皆な吾の正財、偏財を尅するの妖星である、故に官星あれば惡星の力消滅するので正財、偏財は官星の爲めに怨敵を征服せられ、財力を振張ることが出来る、如此の次第なれば此の四柱中の八字を能く々々分拆して、吾の財星が力を有する正官、印綬、食神等の吉星に害を及ぼす惡星はなきか、而して、其吉星が死墓、絶、沐浴に陥りはせぬか、又た其吉星に刑、冲はなきか、と眼を八方に配はり、吉星の力と我身即ち日干の力との優劣を量らねばならぬ、之れに大運及び年君の何れの運が吉星を援助するか、全體の強弱を比較對照して四



柱の組織變化を鑑識するの、推命の要素である

### 極秘沖の解

○年月沖する者は、本人出生すれば其父必ず住居の移動を來す、何となれば日干は即ち身體であつて月上は即ち親位、年上は即ち祖位である。夫れで本人出生して始めて此四柱の組織が備はるので、年月沖する者は其父母住所の移動を爲すこと必然である。夫れから月日沖すれば本人生家の繼續を爲さなくなつて、假令長男にもせよ、又た獨子にもせよ別居なきぬば分家を爲し、さなくば旅地に移住すること確然である。

○年月沖する者は多く生産地を去て移住するの人

○年月沖する者は多く母國を離るゝの人

### 極秘合の解

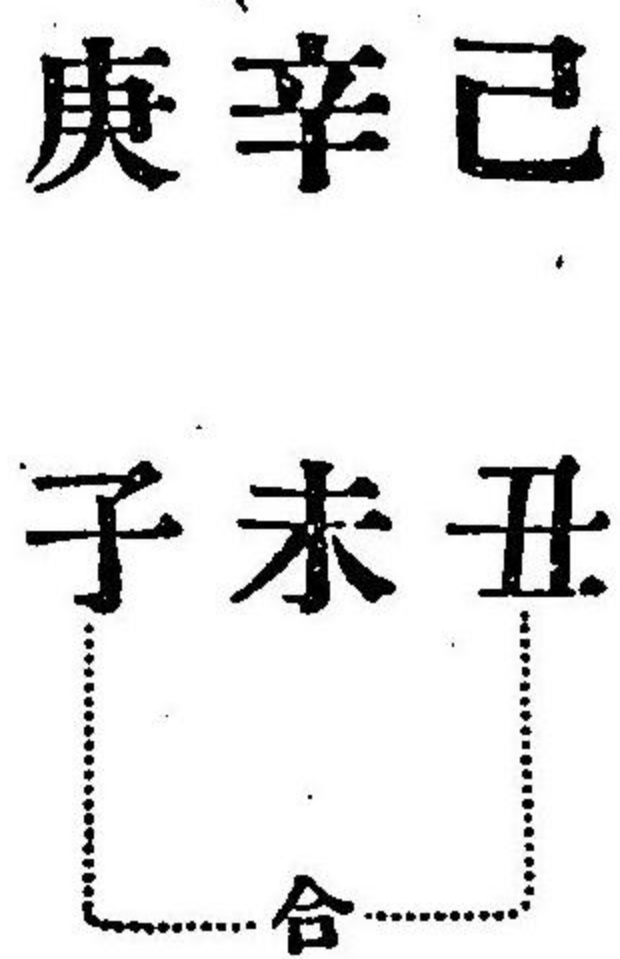
○月日干合する者は生家の繼續を爲す

○年日干合する者は祖家の繼續を爲す

○年月干合する者は本人の父は祖家の繼續を爲したるの人

### 極秘合と沖との解

○年と日と干合し月と日と沖する者は、父の跡を繼がなくなつて、祖家を繼續するの縁係を有する天性であるから、父子別家して祖先の跡を立てるか、若くは其父死亡の後ちに到りて、祖家に復歸し家督の繼續を爲す如き順序となる。何となれば父を沖するの質分は消滅するので、其意義を阻嚼すれば、一目瞭然として容易に首肯することが出来る。一例を揚ぐれば左の如し



如此の命ありとせんか、本人は明治二十二年七月二十三日の出生にて年と月と沖し、年と日と合す夫れで本人出生すまば、其父住所の移動を



爲すこと必然である、然れども其父死亡後に到て本人は生産地に歸去  
することゝはなる

### 月律分野の解

〔第一卷表に見ゆ〕

○月律分野は十二支中に伏在する天干を見なければならぬ、譬は子  
の分野の中には壬癸がある、夫れで陽曆十二月に至て舊十一月の節に  
入る、其節より十日迄が癸の季節である、次は節の日より十一日目から  
壬の節さる、又た午の分野の如きは舊五月の節の日より十日迄は丙  
の季節にして十一日より十九日迄は己の季節、二十日より三十日迄は  
丁の季節となる、此季節に因て分野の質分を見るには月上の十二支を  
以て見なければならぬ、一例を掲ぐれば左の如し

比肩

丁

卯

慶應三年七月六日生

比肩

丁

未

此の命の如きは七月六日なれども未だ六月の節中であつて  
然かも未の節則ち己の季節の終りである、夫れで丁より己は  
食神に當るから日上に食神が現はれるのだ、去れば此月上の

食神

丁

巳

劫財

丙

申

十二支中に伏在する十干(丁未の質分が人干丁巳に對して強  
か弱か善となるか悪となるかを見分けるのである)

### 注意

○推命の要は第一卷中にも記述するが如く、月上、時上にある十干十二  
支に充分の注意を拂はなければならぬ、譬えば甲乙の日の生れ月上に  
申酉の金あれば官星となりて身弱とす、甲乙の日の生れ月上に亥子の  
水あれば印綬となりて身強とす、斯かる譯だから月と時には最も氣  
を付けねばならぬ、十干十二支ともに注目を要す

○日干甚だ旺んにして依る處なきは大運、財運(正財、偏財)に遇ふと悦ぶ  
譬は甲乙の日の生れ春三月(陽曆二、三、四)月丙丁の日の生れ夏三月(陽  
曆五、六、七月)に出生せし如き、月上十二支の中に財官(正官、偏官、正財、偏財)  
となる星なたを云ふのである、如斯生れは唯日干の旺んなるばかりに  
て、吾れを制する官星もなければ、又た財となる星もなき爲め、生涯福無



しの命と推斷しなければならぬ、乃で大運にして財運に遇はなければ、薄福の命と云ふて、概ね孤獨の境涯を表して居る、あまり身旺なれば、異郷にて死去することがある

○日干旺盛にして年月時に財星(正財、偏財、官星、正官、偏官)なれば倚怙(よたのり)する處なく、概して孤貧の身となり貧困にして不足多きを免かれぬ(僧侶等になるの人)

○前述に反して日干甚だ弱くして、吾れを成育する印綬なく、比肩劫財、敗財なく、假や比肩劫財等の吾れと同質の星多くとも正官、偏官は容赦なく氣儘に勢力を占めて我意を恣にするのである、又た財星を有するにもせよ敵對するの力乏しきため、財星を持ちながら、其財を得ること叶はず、恰も金持ちの丐食と同然である、斯る運命を有するの人は、祖先の遺産あるにせよ、其多くは親族縁戚杯に掠奪せられ、見る見る指を喰ゑて傍觀せねばならぬ不利の命たるを免ぬかれぬ、又た身弱一層甚しき者は假令正官、偏官の吉星あるにせよ、拮抗(こつかう)する力が足らず、福なく徳なく長上の引立なく、不倖の裡に世路難を啣(くは)つの人にして、恰も薪車の火が一掬の水もて消すこと出来ないのと同である

○日支に偏印あるは其妻脱胎流産の患ひあり、又た血の道等の病に罹る恐れがある(譬ば甲の日の生れ子の日支ある如きを云ふ)

○日支が財星となれば其妻家政を能くす(譬ば甲の日の生れ辰戌の日支あるが如く乙の日の生れ丑未の日支ある如きを云ふ)

○建祿の日の生れは妻に由て幸福を起す、則ち妻宮に祿あるが故である、本來日干を吾れとし、日支を妻とし、時の干支を子とし、月上を親位とし、年上を祖父母の位とす

○甲乙の日の生れ己(土)の正財あつて、又四柱中に丑未あるか、丙丁の字あれば其人忠孝両全にして正直の質である(丙丁は己の正財を生じ丑未は己に旺するの土勢を増加して吉となる)

○丁の日の生れにして四柱中に壬多きは多情多淫とす、如何となれば壬丁干合するので丁の女干に壬の男干が幾つもあるから右や左に愁波を送り、戀情を運び惹けば靡びき、折れば従ひ、晨に吳客と契りて夕に越客と交えり、秋も來ぬのに鳴く鹿の妻とうならで夫を喚び、褻を復ね



て満足すこは、此質を喝破するに餘儀なき言葉、壬丁干合の真相である  
 ○乙の日の生れ月上庚申あれば正官旺する理で、夫れに冲なく、傷官な  
 ければ仁義の人である

○丙丙の日辛の月何れにもせよ如斯の命にして冲なく、又た尅破する惡星  
辛の日丙の月がなければ立身して多くは軍人社會に驍名を轟かすことがある

○甲の日の生れに丙丁多きは泄氣と云て、吾れの勢力泄出て發達する  
 ことがない

○壬の日の生れ庚辛申酉多きは富貴の命

○甲乙春三月陽曆二、三、四月に生まれ丙丁夏三月陽曆五、六、七月に生れ  
 壬癸冬三月陽曆十一、十二、一月に生まれたる人は何れも長壽を保ち  
 災害尠なしとす

○甲乙春三月陽曆二、三、四月に生れ乙の年又は時に寅卯の字あれば温  
 和にして仁慈の道を破ぶらず

○己の日の生れにして大運辰の運に遭遇したる時、其妾家人と姦通す  
 何となれば辰の分野の中に戊土あり、又た癸水あり、夫れで癸戊干合す

るので、同辰中に此二千が潜伏するから同居の人と通するの理となる  
 ○丙の日の生れにして四柱中に乙庚の字あれば本人出生後其母外情  
 發動して歇まず、何となれば乙は丙の母にして庚の字在て乙と合し自  
 然其母を盗む者ある爲め此難起る

○丙の日の生れにして四柱中に丙の字或は寅の字あれば其父命を失  
 ふか若くは運を破ぶるか、又は病身となるかである、何となれば丙より  
 庚が偏財に當る、此偏財は則ち父の星となる、故に丙の比肩あれば父の  
 庚を破ぶり、夫れに寅あれば午の三合を惹出して火局を結び庚を破ぶ  
 るの理である、又た三合の内戌の字も同質であるが、戌は本來土であつ  
 て庚金を補助するので災害がない

○甲乙の日の生れにして壬癸重かつてあるは福薄すしとす、何となれ  
 ば丙丁の食神を克するので食神は甲乙の財星戊己を生ずるとがなら  
 なくなつて財なきの命と云ふのである

○丙子の日の生れにして四柱中に辛金あれば貧なれど徳あるの人  
 ○辛未の日の生れにして乙木あれば福あれど不仁の人



○壬午の日癸巳の日の生れは上乘の命とす、號して祿馬同群格と謂ふ何となれば壬午の日午の分野中に丁火在て壬の正財となり、己土ありて壬の正官となる、夫れで己より午、午より己何れより見るも建祿なるので祿馬は財官を謂ふのだから、此日の生れは頗る吉祥の命である、又た癸巳は巳の分野の中に戊在て癸の正官となり庚金在て癸の印綬となり丙火在て癸の正財となる、夫れで此生れは日支に財官印の三吉星を包含する爲め四柱中最上の命である、此二日の生れは諸難尠なく福祉多く、道德を失はず、仁慈の心を有して、身上卑賤からず、能く世人に愛敬せらるゝの稟質である、然れども四柱中に正官、偏官あれば却て凶とす、官星重きなりて我れを攻むること甚しき理

○乙亥己亥の日生れ、男子は好色、女子は多淫とす

○庚辛の日の生れ、辰、戌、丑、未の月に生れ、其上大運土の運多きは艱難多く、生涯志望を遂げず、金の勢力ありあまりて官星なければ中和を得たいため金が身を喰ふ始末となる

○丙申の日の生れにして四柱中に壬あれば短命とす、申は水の本源地なるからである、去れど四柱中に戊己、辰、戌、丑、未の土あれば水の偏官を制伏するので、却て壽命長し、又多福を發す

○己亥の日の生れにして四柱中に乙木あれば短命とす、木は亥の水に據て勢力を増加し己土を攻撃すると甚だし、亥水は則ち三合木の本源地である、若し之れに庚辛、申酉あれば却て吉となる

○乙の日の生れにして辛に遇ふは災害多く、又た短命とす、何となれば金は巳に生し、三合巳酉丑の牙城に據て勢力を増加し乙木を制伏す

○時上に正官在て建祿あれば、却て凶徴とす、身上卑賤にして發達なり難し

○時上に正財ある者は入婿となること多し

○時上に七殺ある者は大惡の子を生ず、子の位ひに我れを攻撃する星在ると云

○時上に印綬ある者は子孫光榮を發揚し、能く孝養を稟くることを得

○時上に偏印ある者は祖先を破ぶる

○偏印食神重きなるの生れにして、身弱の者は男女共苦勞多し、女子は



難産の患ひあり

○身旺の質にして日干旺するを云ふ財官印の三星完たき者は頗る吉にして官途商工業等總て大發達を爲し福祿極まりなし

○冲多きは甚だ凶又性質心中に悪意を包含す

○刑多きは不義を働くの人

○合多きは愛情多し

○貴人多きは甚だ忌む却て勞するか病あるか何れ不幸とす

○建祿多きも却て凶滿つれば缺け登れば下るの諺である

○建祿冲するか或は其建祿を破ぶる悪星あれば生國に住せず

○驛馬空亡に落つるは志望を遂げざ

○身旺の生れ比肩在て驛馬あれば兄弟の者身上定まらず

○四柱中に寅申巳亥の四字悉く在るは甚だ凶假令幸運到來するも常に苦勞多く東漂西泊して浮沈激げしく障碍屢次起りて心迷い萬事一定することなし

○天德貴人月德貴人あれば百種の災害を免かる假令四柱全体が悪しくとも福難あることなく却て吉事湧出して富貴となる若し此星正官にあるか正財偏財にあれば貴顯紳士の地位に登ばり發達すること至大の命である

此星日上又は時上にあれば自己の力に因て福を起し終身幸運の命とす若し月上旬上にあれば祖先の遺産を得て中年迄は富貴に居るも晩年に到れば効力薄すし

○四柱中に華蓋ありて天德月德あれば資性正直にして身上貴く社會の任用厚つし

○辰の字多き命は争鬭を好み怒易く戌の字多き命は訴訟を好み勝手多く愛情俱に薄すし

○辰戌丑未完備の四柱は親子兄弟皆不倖にして且つ意見一致せず又た親族にして刑に遇ふ事がある或は親戚間疎遠となることもある本質は妻子に縁薄し

○寅申巳亥此四字の内存在して其字に配する長生あれば賢妻を得

○寅申巳亥此四字の内二字にても四柱中に存在して其字に配する長



生あれば性賢明にして中流以上の位地に踞する事が叶ふ

○年月日時に寅申寅申と重きなる命は色慾を貪ほり暴淫の質とす

○子午卯酉の四字在れば桃花殺と稱して酒色に耽けり世事を務めず

荒淫となる

○寅卯辰此東方の星備はるは名譽を博す

○申酉戌の西方の星全く備はるは富貴の人

○亥子丑北方の星全く備はるも巳午未南方の星全く備はるも俱に富

貴の命とす

○金弱くして木強きの命あれば男子は羸疲の病を發し女子は血の道

の病に罹る

○土弱くして木強きの命は胃病を發す

○木弱くして金強きの命は筋骨疼痛を煩ふ

○火弱くして水旺んなるの命は眼病を發す

○壬癸の水旺んなる生れの男子は賢明にして聰敏なるも女子は多淫

多情とす

○丙丁の生れにして大運水運に遇ねば血疾に惱む

○同干の字多き生れは同干の年に到て災害起る但し正官あれば免か

る又た印綬あるも之れを防ぐ

○十二支同支多き生れは其支に遇ふの年に災害在て不幸に陥る

○干支陰の字多き生れは女子には良好なるも男子には徳薄きを免ぬ

かれず

○四柱の八字に陽多きは男士には吉なるも女子は勢ひ強くして舅姑

に宜しからず又た本夫に仕えて惡し

○月日地支順に備はるは祖先の遺産を得て苦勞尠なし

(順とは子の月に丑の日寅の月に卯の日辰の月に巳と順序に月日備

はるを謂ふ)

○四柱中に地支凶なる字あれば大運其支に遇ふの時災厄起る



# 婦人の解

夫れ女子は男子と陰陽異つて居るので同一の鑑定を下すは間違ひの根原である、第一着目すべきは正官、偏官を目標としなければならぬ、此正官、偏官が則ち女子の本夫とかる、所謂吾れの目上の星を夫と看做し夫れて此正官、偏官が旺なる地位に在るか、若くは衰、沐浴、死、墓、絶に在るか、又た其官星に刑、沖はなきか、傷官はなきかと、四方に眼を注がねならぬ

○女子は身弱の命日干と云ふと大吉とす、其質温和にして能く舅姑に仕え内政に巧みにして本夫の運を破ぶらず、夫婦の仲睦ましく無事に一生を送る、若し身旺なれば勢強く、言語多く、勝氣にして負けるを嫌らい、争論多く本夫の運を傷ふ

○正官、偏官何れも婦女子の本夫とす、然れども正官、偏官俱に在れば身を攻むると強きに失し、却て貧にして身上賤しく、不足多くして終世苦

勞絶えど

○天干に官星あるか、地支中に官星あるか、何れにせよ唯一つあると大吉の命とす、殊に月上に在るを上乘吉とす

○折角官星あるも死、墓、絶、沐浴に遇えば夫の運を破ぶり悲境に陥り其夫命を失ふとが出来る

○官星、死、絶、沐浴に遇ふ者多くは卑賤に陥り、藝娼妓若くは妾となる、若し本夫を得れば日ならずして、其夫運を破ぶり不倖に沈淪し、諸事意の如くならずして閨房に悲愁を語り、久しからずして生別離苦の困厄に逢い、三界家なくして、餘生を涙に送り、果ては仲居等となる、天命諦むるの外はないのだ

○正官は一位に若かば、偏官多きは福を發す

○正官、偏官兩星あれば淫婦たるを免ぬかれず

○正官、傷官あれば夫の運を破ぶり、或は本夫の命を傷ふ、何となれば夫の正官なる者が妻の傷官に破ぶらるゝからである

○正官、長生、建祿、冠帶に坐すれば本夫の運を發達せしむるの潜勢力を有して居る、故に本婦と結婚すれば、假令本夫の運悪くとも婦の援助に



依り、無意識の間に家運の隆盛を來すこと、恰も月球引力の作用に由て潮満つると同一である、故に、此質を稟けたる婦人は無形の財寶を身に帶ぶる伴せの女神である

○正官、偏官何れにせよ官多きは、夫多し

○月上に官星在て旺相する者は百事吉祥にして不幸少く生涯無事の命である(甲の日の生れ月上辛酉あるが如く○丙の日の生れ月上癸亥あるが如く○庚の日の生れ月上丁巳あるが如く○乙の日の生れ月上庚申あるが如く△他は押して知るべし

○正官、偏官大旺して日干至て弱き生れは、却て不倖の命であつて貧賤苦勞絶え間なし

○四柱中に正官在て正財、偏財何れにもせよ財星も旺んに、正官も旺んなる者は賢良の夫を得て安樂である、然れども正官、偏官甚だ旺んにして四柱中に財星多きは、却て多情にして密夫を拵しらせ、又は本夫の運を傷ふ、婦女子は財星少なきを可さず、財星多きは夫に悪く子に悪るし

○正官、偏官至て旺んにして、食神となる星なければ本夫の氣を失して

娼婦の類となる、及ばざるは足らざるに如かず、過食すれば病を起し水も餘れば洪水となる、道理ではないか

○正官、偏官、墓に居るは早く夫を失ふ

○正官、偏官、沐浴に遇はば孤獨の質

○四柱中官星となる星、天干地支俱にかきは、却て吉にして貞節を守り無難に終るの人

○官星全くなきの命は大運、正官、偏官運に遇て本夫を失ふ

○四柱中に偏官二位在る者は貴家に入嫁す

○正官、建祿、長生、冠帶等の良位に坐し、天德貴人、月德貴人在て、傷官なく冲、刑なければ本夫無上の發達を遂げて、其子亦た賢也

○偏官在て食神あり、又た四柱中に印綬あり、天德、月德の貴人あれば夫子俱に最良にして幸福無限とす

○偏官長生に遇ふ者は英邁の夫を得

○四柱中に正財、偏官俱に在れば大運傷官の運、又た劫財の運は縁組み乏ぼし若し嫁し在る者は離苦の愁を生ず、何とされば傷官の運は正官



の夫を尅し、劫財の運は正財を尅す、乃て正財尅せられて官を生ずるとならなくなつて遂に夫を失ふ次第である

○四柱中に正財を破ぶる劫財あり、偏財在て敗財あり、正官在て傷官とある星が十干十二支中にあれば、夫を失ない子を失ふ

○假令正官、偏官俱になくとも天徳、月徳の貴人あれば此の二躰の貴人が諸々の悪星を撃退し良運を起すので、却て世人の敬愛を受け福德多きの質である

○正官在て沖あり、又た四柱中に正官と合する星あれば福ありと雖ども多情にして、應々姦通するとがある

○傷官は女子に於ける第一の凶星である、何となれば其夫則ち正官を亡ぼす魔星であるから、假しや四柱中に正官があるふが、あるまいが、依然たる傷官の暴力は衰えずして正官を破ぶると恰も銃丸が鐵板を貫く様であつて、殊に年上傷官は大凶である、月上傷官は尅しく輕し○次に其傷官が強きか弱きかを識別せねばならぬ、若し勢力強た時は开れ丈本夫を破ぶると最も強よし

○月上に傷官在て他に正財あるが如きは、却て佳良なるとがある、如何となれば傷官は財を生じ、財は官を生ずるの理となつて、終ひに吉となる

○傷官、年上にあれば才智あるか、又は美貌なるか、若し結婚すれば遠方に嫁するか、或は嫁して後ち、旅地に移轉をなすかである、傷官は正官を破ふり其正官は、吾れの月上則ち祖先である、其月上の祖先を破ふるのて生産地を去るは至當ではないか、剰さぬ傷官は財星を生ず、財星は印綬を尅破する故、其印綬則ち吾れを産む母を傷ふから、母國を去て異郷に住するは至當の理である○此質は凶にして難産をなすか、或は短命なるか

○傷官旺かんなれば早く夫の運を破ぶり、夫は非命の最後を遂ぐ

○傷官在て印綬在り、日干絶の日の生れは大運傷官の運に際し、或は歳君傷官年に會して夫を失ふ

○傷官、月に在るか、又た時に在るか、而して日を刑する者は夫を傷ふ

○傷官、正官、俱に在る者は本夫を尅すると甚だし、若し本夫の命運旺盛



にして尅すると出来ぬば、其身羸弱なるか、或は窮途に潦倒するを免かれない

○傷官、正官、食神、正財が四柱を混成すれば色情、嫉妬、貪慾、愚痴、熾なるの質である

○印綬、食神俱に在れば身上貴くして福あり(印綬、食神は陰と陽とであつて尅することなし)

○月上に印綬在て其印綬が至極旺盛にして尅傷せらるることなければ石女とす

○印綬多きは生涯子なし、何となれば本來食神は我身則ち日干より生ずるの子である、其食神は印綬に尅せられて生産力を失ふの理である(甲の日生れ丙火は食神となる、然るに甲の印綬は癸水である、此水多きは火を消すので子を尅するの理となる)○傷官も亦子の星とす、乃で四柱中に食神、傷官の有無を問はず印綬、偏印多きは子を尅することと免ぬかれぬ

○印綬、偏財在るは嫁して後ち舅姑と不和を生ず

○正官、印綬、正財と順に在て刑冲なき者は富貴の家に出生し、其徳高く其福厚く、容姿美艷にして氣品高雅至て賢明の質である、何となれば財は官を生じ官は我れを生ずるの理あるによる

○正財、正官在て墓に遇ふ者、大運歳君冲刑に遇ふの時より發達開運の端緒を開く、何となれば墓は墓庫である、即ち倉庫である、夫れで鍵を以て錠を排き庫内の財物を取出すの理にして、此より當人所有の財庫開けるが爲なり

○食神、長正建祿に遇ふは其子頗ぶる發達す

○食神、旺盛なる者は善良なる實子を得

○食神、過多なれば大過と云て春情強し

○食神、偏印俱にあるは福薄すく苦勞多し

○合多き命は不貞なり(左右より情を持込み精神を亂だすの理)

○偏官在て合する者は男子は大福發展す、去れとも女子は心定まらず美麗と雖ども私情を好み夫を尅し子を害す

○日身に冲する者あれば迷ふ事多く身上定まりがたし



○日支に冲在り、又た日干と合する者あれば、藝妓若くは妾となりて生涯彷徨す

○長生日の生れは身分貴し

○天乙、天官、福生、大極等の貴人在て空亡なく、刑、冲なければ良夫を得て終生貧苦を見ず、伴せ多し、若し天徳、月徳の貴人而已、日上にあれば至大の幸福を發す

○天乙、天官の貴人而已在て偏官在る者は富貴となりて、地位進み、夫婦俱世人の敬愛を蒙る

○諸々の貴人は、尠なきを吉とし、多きを凶とす、多き者は生涯福祿なし  
○貴人、尠なく刑、冲なきは、威勢在て福祿多し、若し貴人に合する者あれば、薄福にして、藝妓、又は尼となり、下賤の界を脱する能はずして、嫁すれば、夫の運を破ぶる、其多くは本夫を得ず、單に貴人多きものは、娼妓となる

### 注意

○女子は年月日時俱に天徳、月徳の貴人に着目しなければならぬ

○天徳、月徳在る者は出産容易にして、諸々の凶星を壓伏するが故に百事良好にして、身と正確に保つの人

○年上に天徳、月徳在て四柱中に印綬在れば、至大の幸福を發し、生涯無難の人

○天徳、月徳在て正財在れば、富貴にして、終生繁昌す

○日貴の生れは安全の命にして、福壽圓滿なり

○羊、双日、双多きは、夫を破ぶる極めて酷だし、如何に運氣隆盛の夫を得るも、久しからずして、家運の敗頽を來し、災禍競ふて、聚まり、非命の死とも遂ぐるもあり

○時上に日、双、羊、双、何れかあれば、夫を尠す

○魁罡日の生れは凶惡極の極にして、筆舌以て記述することかたく、巨萬の財を備え、高位に在るも、久しからずして、蕩盡滅裂し、半途非命の死に憐むべき名残を留む



○日刃、羊刃又は魁罡在る者は多く藝娼婦妾の徒となるか、若くは不倖に沈湎し髮結、産婆、うまくゆいて女教師となる類である、災禍凶惡躬の錆如何ともなしがたし

○時に建祿あれば衆人の敬愛を受く

○日に建祿あれば福祿多し

○劫財ある者は本夫と争ふと多し

○陽干の日の生れ食神多きは娼妓となる

但し制伏する者あれば而からず

○陰干の日の生れ傷官在れば藝妓となる

○時上に陽の干在て旺んかれば本夫の力を得

○四柱中支一貫すれば必ず再縁す、年、月、日、時の支同一なる場合

○四柱中干一貫すれば大福を發す

○三合、干合、支合多きは愛嬌在て世人に親まれるも、不貞にして身上修まらず

○寅、申、巳、亥四字俱に備るは淫行繁くして生涯多くは孤癡の身

○子、午、卯、酉四字皆備るは人に勾引せらる

○辰、戌、丑、未四字悉く備るは多淫なり

○辰と戌と而已備て他字なきは好色にして、本夫の家を破ぶり、自己亦た不倖の巷に流浪す

○丁巳、癸巳の生れは早く夫を喪ふ

○陰錯日の生れは四十代にて必ず夫を喪ふ

○特別注意すべきは日刃、羊刃の生れ、劫財、敗財而已在て官星なき者、傷官旺なる者、魁罡日の生れの者、大凶とす

○本來日刃、羊刃又は劫財、敗財等の凶星在るも、正官、偏官の吉星あれば日刃、羊刃劫財、敗財は顧慮するに足らず、焉れ惡性變じて善性となると恰も毒藥變じて良藥とかるに均しいのである、然れども正官偏官の十支に羊刃あるは甚だ凶、譬えば丙の日の生れに月上壬午あれば壬は丙の偏官で在て、午は羊刃と爲るので忌む理由である  
又た魁罡日の生の女子も四柱中に官星、印綬備はるが如きは却て吉兆とす、去れど惡質の範圍を脱するとは到底出來ない



極 秘

○四柱中に(子酉申)の三字ある女は、本夫を尅する事至て甚し、本人と結婚する者は大難湧出して、家と身と俱に失ふに至る號して桃花殺と云ふ

四柱推命與義秘傳錄卷三終



